

令和 5 年 第 1 3 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和5年12月28日(木)

開会午後2時00分、閉会午後3時30分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番	坪池 宏	2番	黒田 卓	3番	大西 ゆかり
4番	村上 美也子	5番	牧田 和樹	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

理事・教育次長	水落 仁	教育次長	中崎 健志
参事・教育企画課長	福島 潔		
教育企画課課長(高校跡地活用・学校施設担当)		中家 立雄	
教育企画課課長(ICT教育推進担当)	小林 匠		
生涯学習・文化財室長	辻 ゆかり	教職員課長	板倉 由美子
教育参事・県立学校課長	番留 幸雄	小中学校課長	山尾 佳充
保健体育課長	大島 一恵		

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後2時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和5年11月13日開催の令和5年第12回富山県教育委員会会議録
会議録閲覧
荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第37号 富山県指定有形文化財の指定の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第38号 富山県登録無形民俗文化財の登録の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

(1) 臨時代理について(令和5年11月富山県議会定例会に付議する案件に対する意見に関する件)

教育企画課長から説明した。

(2) 臨時代理について(令和5年11月富山県議会定例会に付議する案件に対する意見に関する件)

教育企画課長から説明した。

(3) 「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産への拡張提案候補の選定について

生涯学習・文化財室長から説明した。

(4) 令和5年3月県内中学校・義務教育学校卒業生進路状況調査結果及び令和5年3月県内高等学校卒業生
進路状況調査結果について

県立学校課長から説明した。

(5) 令和6年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について

県立学校課長から説明した。

(6) 公立小学校・中学校・義務教育学校の設置及び廃止について

小中学校課長から説明した。

(7) 富山県学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインの策定について

保健体育課長から説明した。

(8) 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

保健体育課長から説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

5 議決事項

午後3時20分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第39号及び議案第40号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第39号 令和5年度富山県教育委員会表彰（学校給食優良学校等）の件

保健体育課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第40号 令和5年度富山県教育委員会表彰（健康教育実践優良学校）の件

保健体育課長から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第39号及び議案第40号については、適切な時期に公表することを決定した。

6 議事

○議案第37号・38号関係

〔牧田委員〕

・3つ質問があるのだが、まず審議会のメンバーがどういう方々なのかを教えてください。それからお鞆様（おくわさま）が今回初の登録ということで、指定と登録の何が違うのか、例えば登録有形文化財になると固定資産税がちょっと安くなるのだが、無形民俗文化財の場合、登録と指定の違いは何かあるのか、3つ目はそれぞれウェルビーイングに資するとの話だったが、どんなロジックでウェルビーイングに資するのか教えてください。

〔生涯学習・文化財室長〕

・まず県の文化財保護審議会の委員については、全部で15名をお願いしている。文化財もたくさん分野があるので、有形文化財で5名、主に大学の先生方や県内外の有識者の方々に委嘱している。今回の民俗文化財の分野においては、具体的には有形民俗の部分で県内の民俗の会の幹事の安力川恵子さん、無形民俗の部分については富山大学芸術文化学部の島添貴美子先生、生活文化全般については国学院大学観光まちづくり学部の石垣先生、記念物とか重伝建にかかわる件とか、その他として文化財の活用で通訳士として活躍しておられる西邨智子さん、マスコミ代表として北日本新聞社編集局次長、公募の方もお一人、一級建築士の方など15名の方に委嘱して審議をしていただいている。

〔牧田委員〕

・その方々はそれなりの方だと思うが、本当にそうか。

〔生涯学習・文化財室長〕

・例えば工芸の分野においては金沢美術工芸大学学長をお願いしている。学術的、専門的な見地からのご意見をいただいている。

〔牧田委員〕

・それは基本的に全会一致なのか。全員が賛成して通すということか。

〔生涯学習・文化財室長〕

・ そうだ。

〔牧田委員〕

・ 経緯が分からないので、今度からはそういうのも付けてほしい。

〔生涯学習・文化財室長〕

・ 今回の登録無形民俗文化財に関する指定と登録の違いだが、ざっくりいうと指定の方がいろいろな支援がある。登録の方が緩やかな保存、保護というような分け方だにご理解いただければと思う。先ほど税制上の話、例えば建物等の有形文化財についてはそのようになっているが、今回の無形民俗文化財については形がないので、今回の登録については例えば支援の内容としては道具の保存とかそういう部分で少し支援するとか、記録として残すという部分とかで支援はできる。

〔牧田委員〕

・ それは明文化されているのか。基本的に文化庁等の認識では指定と登録では大きく違っていて、指定というのは国が強制的に指定をするので国がある程度面倒を見る、登録は建前上所有者が登録してほしいと国や行政にお願いをするので自由度があるかわりにほとんど支援がないというのが基本的な立場だと認識しているが、今の話だと支援がありそうなので、それはどこかに書いてあるのか。というのは、この本芳氏がお歟様（おくわさま）をやめると言ったときに、多分登録の場合は本芳氏から願い出ているのでやめても大丈夫だが、指定になると強制的に続けていかないといけなくなる。県の指定の場合は続けていくためのそれなりの措置を講じないといけないと思うが。何か根拠があれば教えてほしい。

〔生涯学習・文化財室長〕

・ 指定も登録も解除ということはある。本人から要請を受けて登録したものではない。今回の県の登録についてはこれまでの調査等のなかから文化財保護審議会の皆様のご意見を踏まえて、事務局で専門委員の先生と精査したうえで審議会の方にあげて協議していただいたものだ。

〔教育長〕

・ 本芳さんからの申請で、ということではなく登録する県が主体的に調査した結果、これが良いであろうというふうに考え、また審議会の先生方の意見も聞き、調査を重ねながら登録に至ったということだ。

〔牧田委員〕

・ ということはますます指定と登録の違いが何なのかということが大事になってくる。私の思っていた解釈とは違っていたのでびっくりしている。今の話では本芳さんがお歟様（おくわさま）をやめましたと言ったらそうなるということか。

〔教育長〕

・ 今は息子さんが継いでいる。

〔牧田委員〕

・ いずれどこかで途絶えてしまう。それを途絶えないようにするようにケアしないとけないということも含めて、登録と指定というのは先ほど緩さといっていたが、時代によって緩さが違うのでどこかに根拠があってもいいのでは。

〔教育長〕

・ 法律そのものではなくてそれを受けたいろんな国の方針で根拠はある。例えば一般的には有形のものであれば指定と登録では指定のものはそう簡単には手を加えられない、登録の場合は例えば届け出などをして進めていく、そういう意味で縛りの違いはある。受け継いでいく、例えばお歟様（おくわさま）に限らずいろいろなお祭りもそうだが担い手がいなくなるというのはある。

〔牧田委員〕

・ 現実問題はそうだろうが、今の問題は登録と指定の違いが何かということだ。仮に本芳氏が続けられなくなった時に登録でよかったのか指定でなければいけなかったのかということを明らかにしてほしい。今回が県の第一号だから余計そのへんに注意を払わないといけない。

〔教育長〕

・ 文化財制度の枠組みとしてはそれが受け継がれないということも現実にはありうる。その場合にはそれを記録するという制度に切り替わっていく。

〔牧田委員〕

- ・それはいいのだが、登録と指定の違いは何か。緩さだけではちょっとわからないのだが。

〔教育長〕

- ・それについては改めてご説明したい。

〔牧田委員〕

- ・わかった。疑問がある部分については、つまびらかにしていただきたい。
- ・ウェルビーイングについてはどうか。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・どちらも富山県民としての意識、故郷を愛する気持ちの高まりにつながるというような意味も含めて、それぞれ個人の幸せも含めて地域を後押しするという機運につながっていくだろうという思いも込めてウェルビーイングに資するという風に考えている。

〔牧田委員〕

- ・機運を作ることがウェルビーイングを感じるということではないのでは。ウェルビーイングはあくまでも個人が感じるからだから、これを登録することによって個人がどのようなロジックで幸せを感じるのかということも教えてほしい。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・県としての大事な文化財であるということが認められたということから、誇りに思い大事にする気持ちが高まるということがあると思う。

〔牧田委員〕

- ・要するに自分の地域にこんなものがあるのだというプライドを持つことができるので、そこから富山県に住んでいる自分が幸せだと思えるということか。

〔教育長〕

- ・そういうことだ。

〔牧田委員〕

- ・わかった。

○報告事項(1)関係

〔牧田委員〕

- ・青少年の家の指定管理者は継続なのか変わるのか。

〔教育企画課長〕

- ・継続だ。

○報告事項(7)関係

〔坪池委員〕

- ・ガイドラインは、外部の人を見つけるのはなかなか難しいが、兼職兼業をきちんと書いてあるのは非常にいい、やりやすくなると思う。ただ、勤務校で仕事に差し支えないようにというふうに書いてあるのはそもそもその通りだと思うが、教職員課でカウントしている時間外の時間には当然これは入れないわけか。

〔教職員課長〕

- ・県の活動ではないため、教職員課で調査している出退勤把握には入らない。

〔坪池委員〕

- ・もう一点、生涯にわたって運動し続けることの重要性については1年前に発言したと思う。前回も聞いたと思うが、運動が好き、体育が楽しいという質問項目があって、そこに注目すると好きと答えた女子が全国値と比べても低くなっているという説明があった。今回はそのあたりはどうか。

〔保健体育課長〕

- ・今回は男女によって若干違って、国公立すべての値だが、体育が楽しいという項目と運動が好きという項目があり、運動が好きという項目について全国より高いのは小学校女子と中学校男子だ。小学校男子と中

学校女子は全国より低くなっている。

〔坪池委員〕

・ 前は中学校の女子だけだったと思うが。

〔保健体育課長〕

・ 昨年度については、運動が好きと答えたのが全国より高かったのは中学校の男子だけだ。

〔坪池委員〕

・ 運動が得意な子はもちろん好きなのだが、生涯にわたって健康とかを考えるとむしろ苦手な子が積極的にかかわっていく必要があって、うまくなくても好きというのをどうやっていくかというのが授業改善に大事なことだと思う。そのあたりをどんな形で進めているのかわからないが、体育の授業の改善を通して進めてほしい。

〔保健体育課長〕

・ 今後この結果を分析して活かしていきたいと思う。

○報告事項(4) 関係

〔村上委員〕

・ 大学進学、就職に関して近畿圏に進学する人がちょっとずつ増えているというのは新幹線の影響があるのか。できれば若い人が、外に行ってもいいので富山に帰ってきてくれれば、あるいは富山の中で進学してそのまま富山で活躍してもらえればいいと思っている。ますます流出が進む状況にならなければいいと思うが、どのように考えているのか。

〔県立学校課長〕

・ ご指摘の通り、近畿が5年前からみると3ポイントあまり増えてきている一方、県内への進学は3パーセントぐらい減ってきているが、分析ははっきりつかめていない。出ていくことはいいのだが、しっかり戻れることが重要だと考えていて、17歳の挑戦などで、これまで普通科ではそのようなインターンシップ的なことはやっていなかったのだが、県内の企業の素晴らしさをできるだけ知ってもらいたい。実際の目的はあくまで将来の働く場について考えるというのが最大の目的だが、そういったことを知ってもらうという機会も作りながらやっていきたい。

〔牧田委員〕

・ この件に限らず、もう少し教育委員会の事務局としては子どもたちの生の姿、現状を把握してほしいと思う。高校再編の話にもかかわるが、実際に定員割れしている学校があって、なぜその学校に魅力がないのかというのは親や大人が考えてもわからないので子供の生の声を聞くとか、進学状況等についても県立高校を出た子どもたちを何人か抽出してトレースしていくとか、そういうことをして本当の実態を把握しないと本当に正しい政策がうてない気がする。特に人口減少基調で成果を上げるということはまだ誰も経験していない。拡大基調では成果を上げているけれども、減少基調では誰も成果を上げたことがなく、正解というものがない。正解がないということは問題や課題からアプローチしていくしかない。現状を知らないと課題や問題は見えてこないし、いろんなことについて子どもたちの実態や現状を把握するような取り組みをしてほしい。

〔教育長〕

・ 統計的に全部足しあげた結果の数値を見るだけでは掴みきれないのかもしれない。そこをもう少し突っ込んだところの把握をどうやったらできるかというのは悩ましいところだ。

〔牧田委員〕

・ ランダムに抽出してアンケートを送ればどうか。

〔教育長〕

・ 学校や子どもへ調査をするとなるといろいろ配慮が必要になってくるので考えなければならないが、ご意見は参考にしたい。

○報告事項(8) 関係

〔大西委員〕

・坪池委員と同じことを思っているのだが、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について、体力の結果については見せていただいているが、中学校の部活動が必須ではなくなって、しかも土日は地域移行になるということで、コロナ禍以前の体力にそもそも戻るのは難しい、期待できないということになるのではないかという感想を持った。どちらかという生涯にわたる健康維持のための運動習慣の定着ということが大事になってくると思う。教育委員会の項目がたくさんあって一枚にまとめにくいものなのか、もしもまとめられるようなものであれば見せていただければと思う。運動が苦手な子やあまり好きではない子、生涯健康でいるために大事なことだと思うので、運動習慣を子供たちにどう定着させていくかというのを先生方も多忙化の中で難しいと思うが工夫していくようお願いしたい。

〔保健体育課長〕

・資料については十分ではないが、今後工夫していきたい。授業改善や子どもたちのやる気を引き出すような授業の仕方についてはこれまでも中央研修などの成果も皆さんに受講いただいてフィードバックしているところだが、今後ますますいろんなやる気を引き出す、子供が自ら運動に取り組みたいと思えるような改善に努めていきたいと思う。

○その他

〔黒田委員〕

・八尾高校の情報漏洩の件について、非常に上手に答えていただいたと思う。16時30分の記者会見の前にメールをもらって、その後会見を見たが、対応はすごく良かったと思う。不安を抱かせるようなことがないようなふうに思えた。ただ、まだ記者さんとかもクラウドのイメージなのか、今回何が問題だったのかをちゃんと深めずに報道しているところもあって、しばらく注意が必要だと思う。一点、プレスリリースの紙にはなかったのだが、漏洩の状況をどのように確認したのか質問があったのだろう、アンケートによって3名の生徒が見ていたという報道があったが、IT系のところではアンケートというのは馴染まなくて、ログを見ていただくと誰がどの時間帯にどこにアクセスしたかが分かるようになっているので、それで確認したというふうに言ってもらった方が良かった。あとから確認したということで報告をもらったので安心した。これが、クラウドを使わないという方向に向かわないようにしてほしい。

・今日の資料もBOXを使っていたのでそろそろ切り替えているのかなと思ったが、なかなか今までと手順が違くと面倒かと思うが、県の関係はBOXを使っていて、特に問題はなかったので今回の件にくじけずに続けていただきたい。

〔教育長〕

・新しい技術に対応していくのもなかなか難しい部分もあって、ああいうことも起こってしまったが、これからどんどん活用していくにあたって、ヒューマンエラーが起きないようにしっかりとシステム化していきたいと思う。

〔坪池委員〕

・今、情報の教科書のレベルがすごく高くなっていて、パイソンのプログラム言語の教科書はすごくレベルが高くて、仮に高校生がこれを学んでいったら、民間の企業に行けばこれぐらいのレベルのことを知っている人というのはごく僅かしかない、そういう教科書の見方もあるらしい。いろんな場で高校生の情報の力が全然できていないから課題があるという言い方もされるが、今はしっかりやっているということをどこかで紹介する場面があってもいいと思う。

〔黒田委員〕

・先日高教研の情報部会に出たが、情報の先生方は熱心に取り組まれていると感じる。富山大学の方でも情報のサポートをしているということで、実践事例集というようなものも昨年作成している。大分情報の先生方には広がっていった。ただ、そういう取り組みをやっているということをアピールしていったほうがいい、一般の人にもわかるようにした方がいいと思う。学校の方はテストがはじめにあって、その結果がどうかということが出てこないと客観的な話が難しいかもしれないが、ここ数年非常に意識的に取り組んでくれているという風に思う。

〔牧田委員〕

・現場はどうなっているのか。情報の時間があったら基礎5教科をとにかく勉強しろという雰囲気があり、他教科の課題も多くこなさなくてはならないし、追い詰められているのが現実だ。そういう意味では、それぞれの学校によってどのようなことが起きているかということをも今のような話をする上では提供してほしい。

〔教育長〕

・大学入試でも情報を必須にしている大学もある。ベースのところは皆さん一生懸命にやっている。情報Ⅱまではやらないなど、差はあると思う。情報専門の教員が当初は少ないということで批判もあったが、採用をどんどん進めていって層も厚くなってきている。富山大学の協力もいただいているようなコンテンツ、指導方法についての情報も蓄積して共有もして、指導の向上を図ってきているところだ。そういう状況について情報発信をし、例えば教育委員会も視察等するなどして情報提供していきたい。

〔牧田委員〕

・学校側から正直に上げてもらうのが大事だと思う。文科省で情報を共通テストに入れるかどうかにかかわったことがあるが、結局基礎学力というのは、プログラミングにしても数学的ロジックがないとある程度取れない。数学的ロジックができないとどれだけ情報の授業をしても入っていかないし、国語のできない子に英語を教えてもいつまでたっても上達しない。関連があるので、そういうことをいち早くつかんで子どもたちにマッチした教育をアダプトしていくことが大事なことだと思う。その発展形が今の坪池委員の意見のように、情報がすごいという発信につながっていく。そのためには現実を知らないと、違うことをやってもだめだ。カレーライスを食べたいのにうどんを食べるとうどんを与えても仕方がないのと同じで、何を食べていいのかを知ることが大事だ。

〔教育長〕

・情報や英語教育とか、いろんなところがかつてとは大分変わってきているということで、そういったものの情報共有、現状把握を考えていきたい。

午後3時30分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。